

(6) キャンプファイヤー場

3か所

(7) 野外活動コース

オリエンテーグ、自然観察、ハイキング、フィールドワーク、冒険・体力づくり、ソリ滑りスロープ

(8) 備 品

① 体育用備品

㊦ 屋 外

ソフトボール用具一式、軟式野球用具一式、サッカー用具一式、バレーボール用具一式、オリエンテーリング用具一式、スノーボード(100台)、信号器(2丁)、ストップオッチ(2箇)

㊧ 屋 内

卓球台(7面)、バスケット用具一式、バレーボール用具一式、ボートボール用具一式、バドミントン用具一式、セーフティマット(2枚)、踏み切り板(2台)、平均台

㊨ 野 営

テント(6人用39張)、寝具(寝袋、シェラフシート)炊飯用具一式

② 学芸用備品

プラネタリウム一式(可搬式)、16%映写機、ポータブルプレーヤー、O・H・P、ワイヤレスアンプ・マイク、スクリーン(2台)、テープレコーダー(オープンリール式2台)、カセットテープ式(2台)、ステレオ、スライド映写機、ピアノ、エレクトーン、アコーディオン(2台)、トランシバー(3台)、テレビ、ハンドスピーカー(2台)ギター(2台)、木工具セット(7組)、面板(150枚)、鉱物標本

第3節 利用状況

少年自然の家の利用は、①学校教育の一環として利用する場合、②少年団体等社会教育関係団体が利用する場合 ③少年団体指導者養成のため市町村教育委員会等が利用する場合 ④県並びに少年自然の家の主催事業に参加する場合等に大別される。

本年度の利用総人員は289団体(前年度は261団体)、研修実人員22,055人(前年度は20,195人)、延研修人員は54,290人(前年度は50,563人)であったが、その詳細な利用状況は次のとおりである。

1 学校が利用したもの

利用した学校、学年、研修人員並びに研修内容は表1のとおりである。

2 社会教育関係団体等が利用したもの

利用団体、研修人員並びに研修内容は表2のとおりである。

3 少年団体指導者養成のために利用したもの

主催団体、研修内容、参加対象並びに研修人員は表3のとおりである。

4 少年自然の家の主催事業

(1) 御霊櫃峠つつじめぐり

① 目 的

御霊櫃峠一帯の新緑、つつじを探勝しながら共同宿泊、野外レクリエーションの楽しみを求めさせる。

② 期日、会場、参加者数

ア 期 日 昭和51年7月23日～24日 1泊2日

イ 会 場 福島県少年自然の家

ウ 対 象 親子、兄弟(姉妹)など家族単位で参加、原則として小学生以上 参加者 72名

③ 研修内容

○御霊櫃峠登山 ○キャンドルファイヤー
○親子レクリエーション

(2) 親子キャンプ登山のつどい

① 目 的

キャンプ及び登山を通じ、大自然に親しみながら相互の親睦、健康の増進を図る。

② 期日、会場、参加者数

ア 期 日 昭和51年7月30日～8月1日 2泊3日、

イ 会 場 福島県少年自然の家

ウ 対 象 親子または地域のグループ(原則として子ども5人に成人1人の6人で1グループ)単位で参加。 参加者 81名

③ 研修内容

○御霊櫃峠登山 ○テント設営・撤収、炊さん、
○キャンプファイヤー ○レクリエーション

(3) 親子レクリエーションのつどい

① 目 的

親子で共同宿泊生活を通じ、野外レクリエーションなどに楽しいひとときをおくって望ましい親子関係を深める。

② 期日、会場、参加者数

ア 期 日 昭和51年10月10日～17日 1泊2日

イ 会 場 福島県少年自然の家

ウ 対 象 親子単位で参加 参加者 80名

③ 研修内容

○室内ゲーム ○フォークダンス
○オリエンテーリング

(4) 親子雪のつどい

① 目 的

共同宿泊生活を通じて、親子の理解を深めるとともに、冬の遊びをくふうする能力を高める。

② 期日、会場、参加者数

ア 期 日 昭和52年2月12日～13日 1泊2日

イ 会 場 福島県少年自然の家

ウ 対 象 親子・兄弟(姉妹)、地域の小グループ 参加者 99名